

## 国内の畜産物の需給動向

# 牛肉

### 6年12月の牛肉生産量、前年同月比2.1%増

#### 生産量

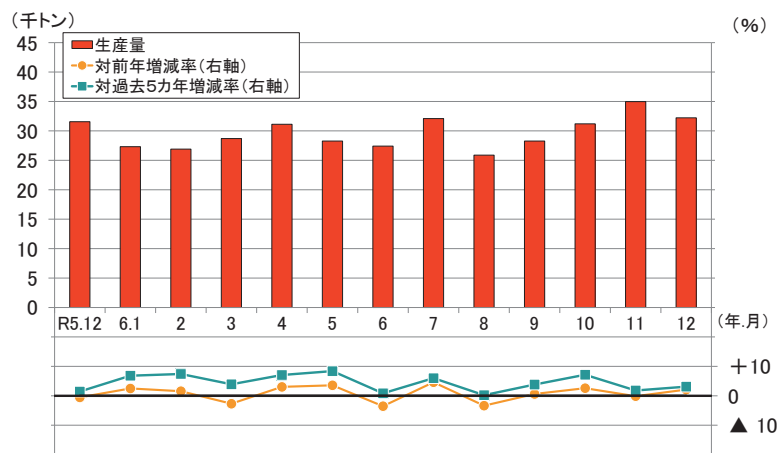
令和6年12月の牛肉生産量<sup>(注1)</sup>は、3万2225トン（前年同月比2.1%増）と前年同月をわずかに上回った（図1）。品種別では、和牛は1万7260トン（同7.7%増）と前年同月をかなりの程度上回った一方、交雑種は

8484トン（同0.7%減）とわずかに、乳用種は6428トン（同3.6%減）とやや、いずれも前年同月を下回った。

なお、過去5カ年の12月の平均生産量との比較では、3.1%増とやや上回る結果となった。

（注1）生産量の合計は、その他の牛、子牛を含む。

図1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」  
注：部分肉ベース。

#### 輸入量

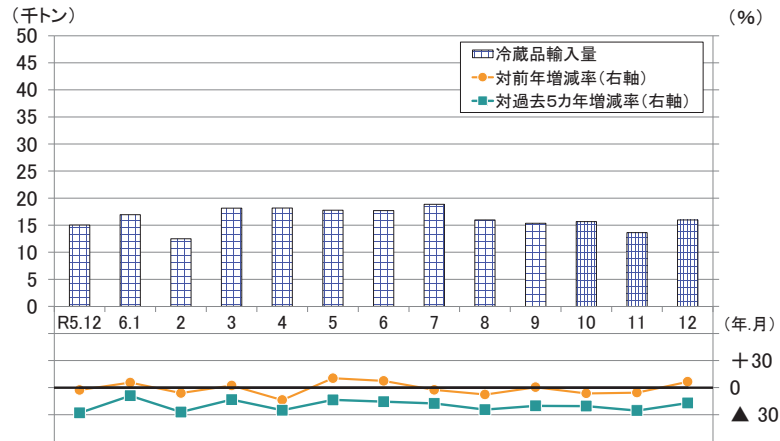
12月の輸入量について、冷蔵品は、国内需要の低迷により低調に推移する中、前年同月の輸入量が少なかった他、主要輸入先である豪州産輸入量が増加したことなどから、1万5984トン（前年同月比6.4%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図2）。冷凍品は、豪州産のうち主に加工用のひき材などに使用されるトリミングの輸入量が増加し

たことなどから、2万3212トン（同10.2%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図3）。この結果、輸入量の合計<sup>(注2)</sup>でも、3万9209トン（同8.6%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

なお、過去5カ年の12月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は17.1%減と大幅に、冷凍品は7.2%減とかなりの程度、いずれも下回る結果となった。

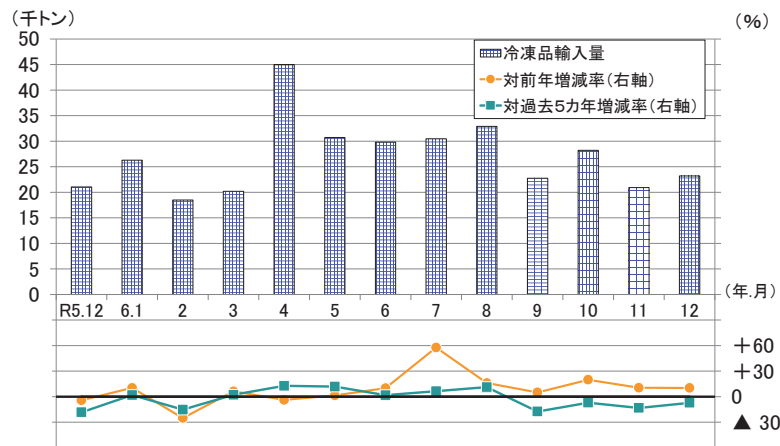
（注2）輸入量の合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

## 家計消費量等

12月の牛肉の家計消費量（全国1人当たり）は215グラム（前年同月比4.9%減）と前年同月をやや下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の12月の平均消費量との比較では、11.3%減とかなり大きく下回る結果となった。

12月の外食産業全体の売上高は、雨天が少なく天候に恵まれた上、長い年末年始の連休で、帰省などの国内移動や単月で過去最高

となる訪日外客数などにより好調だったことから、前年同月比6.6%増と前年同月をかなりの程度上回った（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、クリスマス商品の訴求により堅調で、同1.7%増と前年同月をわずかに上回った。また、牛丼店を含むファストフードの和風は、高単価の海鮮メニューが好調で客単価を押し上げ、同14.8%増と前年同月をかなり大きく上回った。ファミリーレストランは、全般的に年末需要が旺盛

だったが、ファミリーレストランの焼き肉は、土日数が少ない曜日周りが影響し、同2.8%増と前年同月をわずかに上回るに留まった。

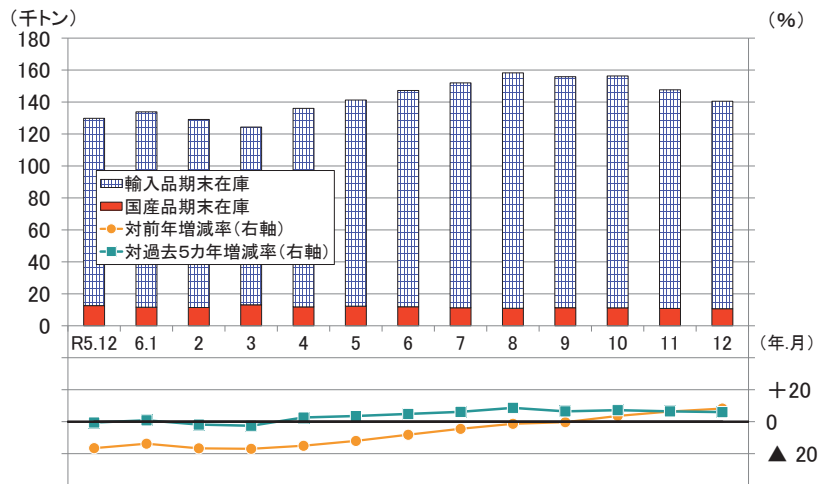
### 推定期末在庫・推定出回り量

12月の推定期末在庫は、14万495トン（前年同月比8.2%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図4）。このうち、国産品は1万694トン（同15.3%減）と前年同月を

かなり大きく下回った一方、在庫の大半を占める輸入品は12万9801トン（同10.7%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

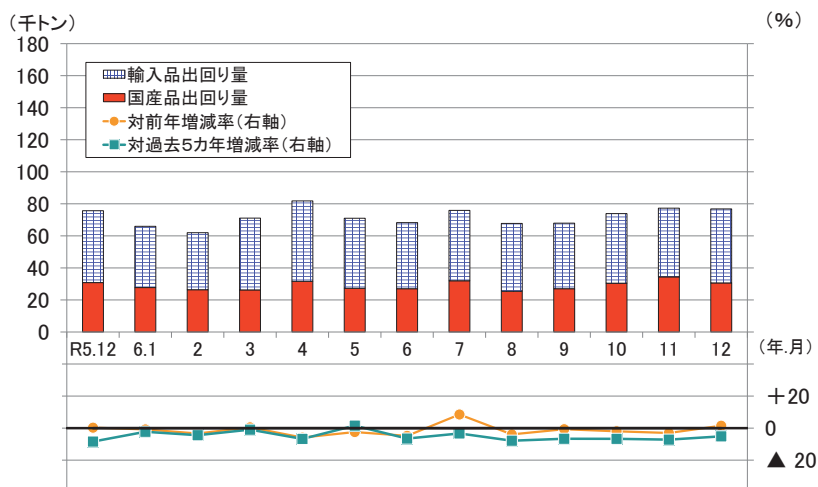
推定出回り量は、7万6830トン（同1.5%増）と前年同月をわずかに上回った（図5）。このうち、国産品は3万631トン（同0.7%減）と前年同月をわずかに下回った一方、輸入品は4万6199トン（同3.0%増）と前年同月をやや上回った。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 丸吉 裕子)

# 豚 肉

## 6年12月の豚肉生産量、前年同月比0.6%減

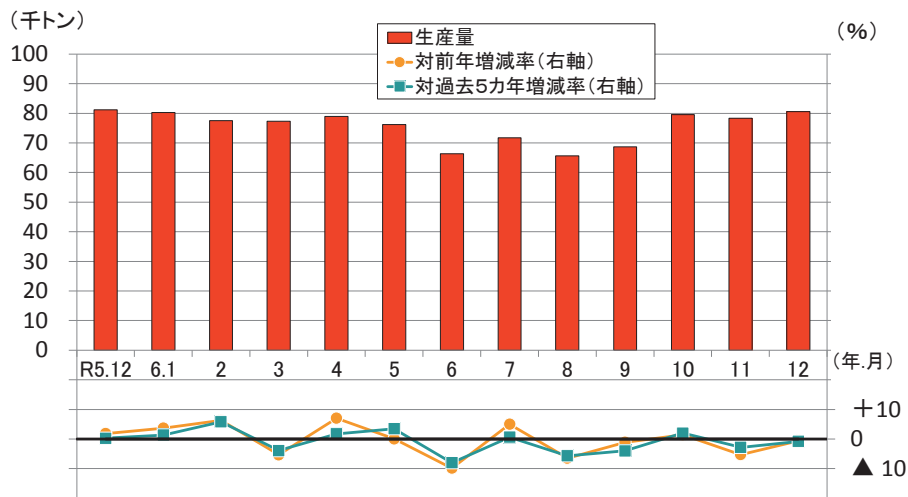
### 生産量

令和6年12月の豚肉生産量は、8万661トン（前年同月比0.6%減）と前年同月を

わずかに下回った（図1）。

なお、過去5カ年の12月の平均生産量との比較でも、0.8%減とわずかに下回る結果となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」  
注：部分肉ベース。

### 輸入量

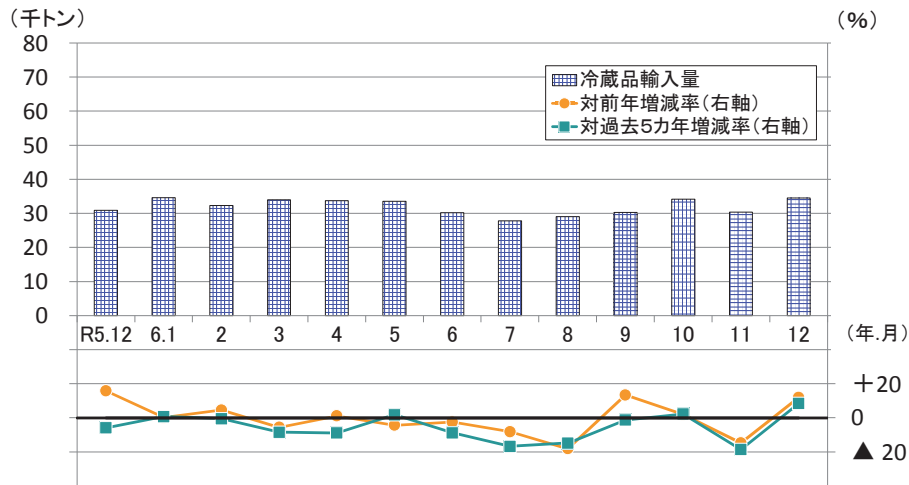
12月の輸入量について、冷蔵品は、前月の入船遅れ分の通関などによりカナダ産輸入量が増加したことなどから、3万4548トン（前年同月比12.0%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図2）。冷凍品は、価格優位性のあるブラジル産輸入量が増加したことなどから、4万1969トン（同14.0%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図3）。

この結果、輸入量の合計<sup>(注)</sup>でも、7万6518トン（同13.1%増）と前年同月をかなり大きく上回った。

なお、過去5カ年の12月の平均輸入量との比較でも、冷蔵品は8.4%増、冷凍品は7.4%増と、いずれもかなりの程度上回る結果となった。

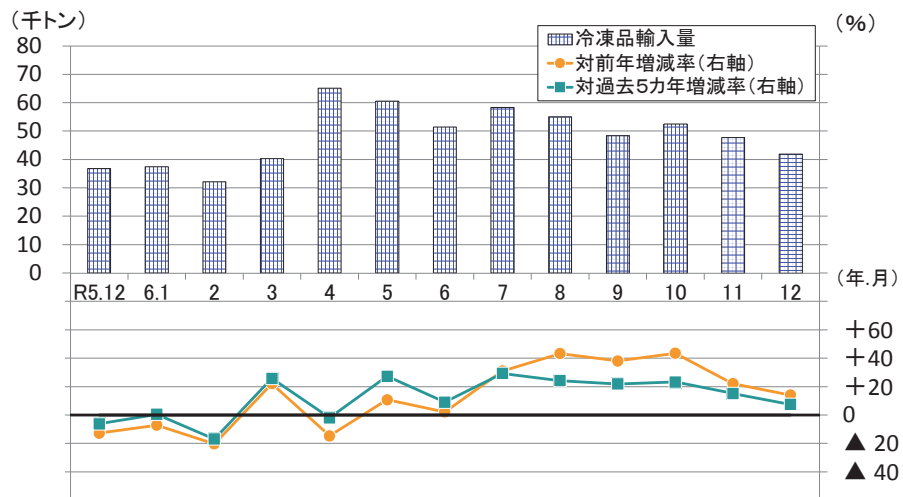
(注) 輸入量の合計は、くず肉を含む。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：部分肉ベース。

## 家計消費量

12月の豚肉の家計消費量（全国1人当たり）は、692グラム（前年同月比1.0%減）と前年同月をわずかに下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の12月の平均消費量との比較では、1.5%増とわずかに上回る結果となった。

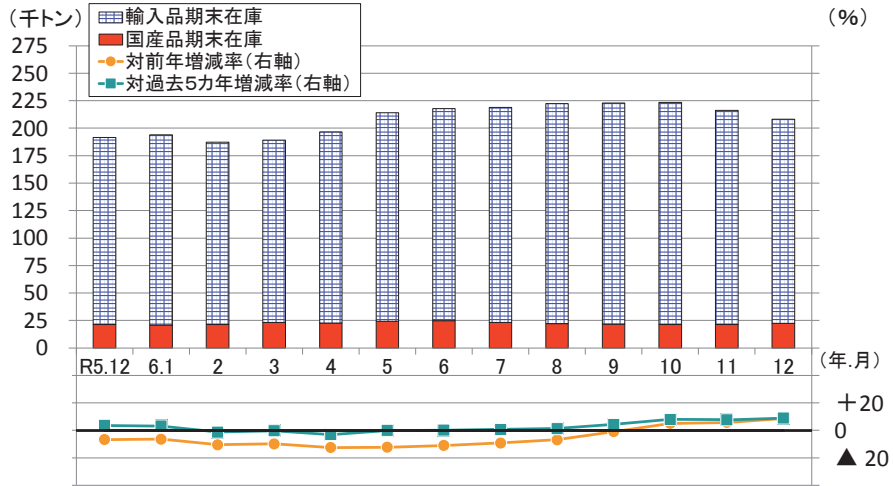
## 推定期末在庫・推定出回り量

12月の推定期末在庫は、20万8194トン（前年同月比8.7%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図4）。このうち、輸入品は、18万5736トン（同9.2%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

推定出回り量は、16万5004トン（同2.1%増）と前年同月をわずかに上回った（図5）。このうち、国産品は7万9425トン（同0.4%減）

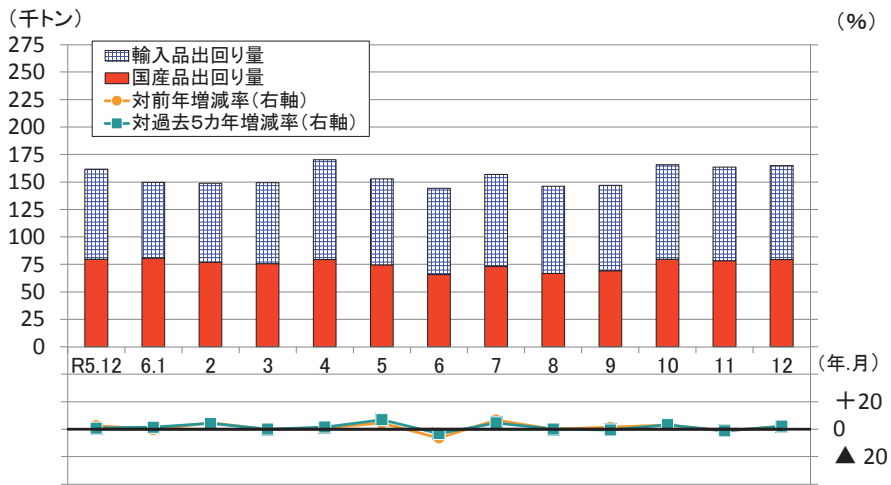
と前年同月をわずかに下回った一方、輸入品 をやや上回った。  
 は8万5579トン（同4.6%増）と前年同月

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 小森 香穂)

# 鶏肉

## 6年12月の鶏肉生産量、前年同月比0.6%減

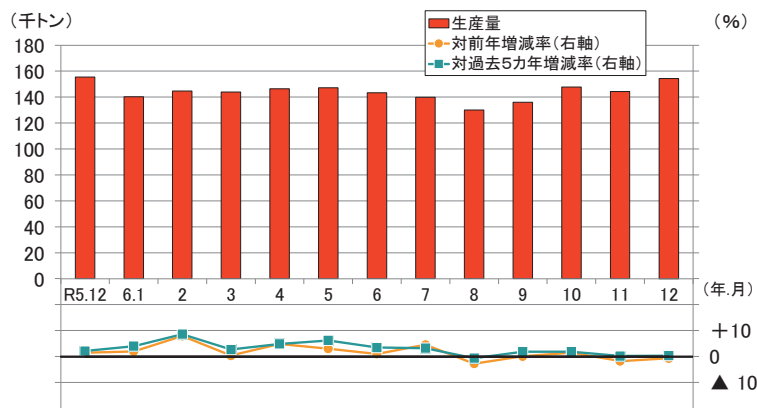
### 生産量

令和6年12月の鶏肉生産量は、15万4393トン（前年同月比0.6%減）と前年同月

をわずかに下回った（図1）。

なお、過去5カ年の12月の平均生産量との比較では、0.4%増とわずかに上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ  
注1：骨付き肉ベース。  
注2：成鶏肉を含む。

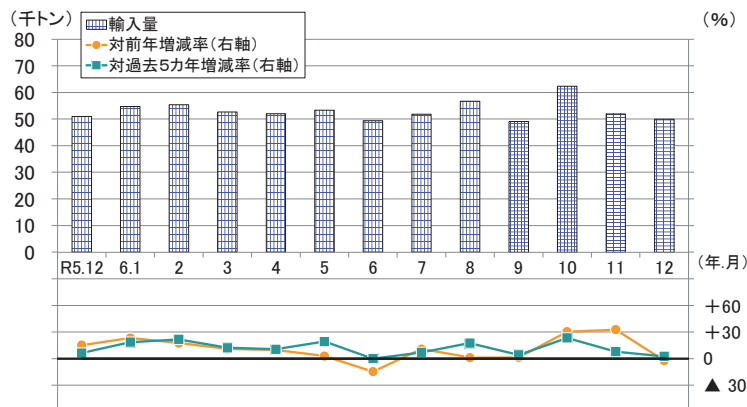
### 輸入量

12月の輸入量は、国内の節約志向を背景とした鶏肉需要により安定的に推移する中、前年同月のタイ産輸入量が多かったことなど

から、4万9932トン（前年同月比2.1%減）と前年同月をわずかに下回った（図2）。

なお、過去5カ年の12月の平均輸入量との比較では、2.5%増とわずかに上回る結果となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

## 家計消費量

12月の鶏肉の家計消費量(全国1人当たり)は、625グラム(前年同月比4.1%減)と前年同月をやや下回った(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の12月の平均消費量との比較では、4.2%増とやや上回る結果となった。

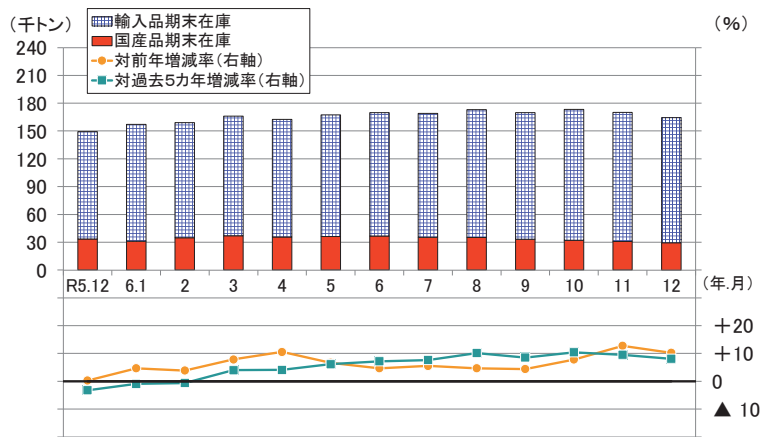
## 推定期末在庫・推定出回り量

12月の推定期末在庫は、16万4505トン

(前年同月比10.2%増)と前年同月をかなりの程度上回った(図3)。このうち、輸入品は13万4940トン(同16.7%増)と前年同月を大幅に上回った。

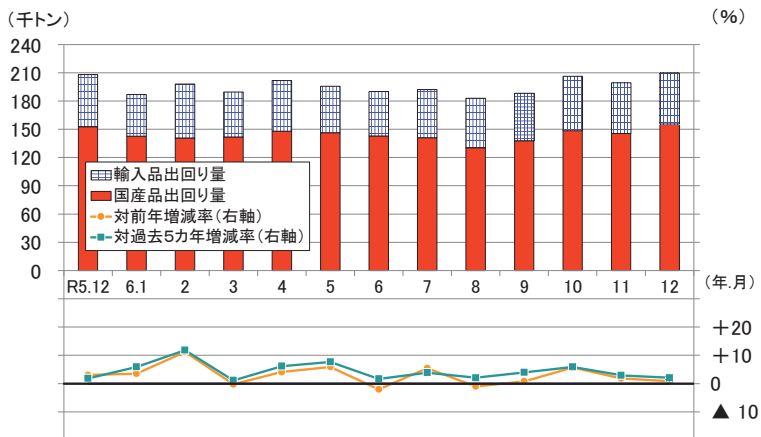
推定出回り量は、20万9923トン(同0.9%増)と前年同月をわずかに上回った(図4)。このうち、国産品は15万5608トン(同1.9%増)と前年同月をわずかに上回った一方、輸入品は5万4315トン(同1.7%減)と前年同月をわずかに下回った。

図3 鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 大西 未来)



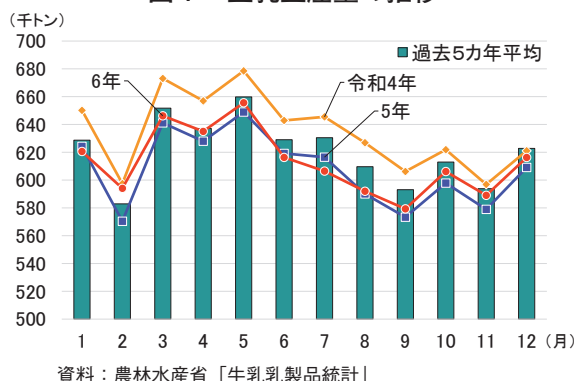
# 牛乳・乳製品

## 6年12月の全国の生乳生産量、5カ月連続で前年同月を上回る

### 北海道の生乳生産量、前年同月比3.0%増

令和6年12月の生乳生産量は、61万6250トン（前年同月比1.2%増）と5カ月連続で前年同月を上回った（図1）。地域別では、北海道が35万6974トン（同3.0%増）となり、5カ月連続で上回った。一方、都府県では、25万9276トン（同1.2%減）とわずかに下回り、6カ月連続での減少となった。

図1 生乳生産量の推移



12月の生乳処理量を用途別に見ると、牛乳等向けは30万4014トン（同0.3%増）と、3カ月連続で前年同月を上回った。このうち、業務用向けについては2万6670トン（同3.9%減）と7カ月ぶりに前年同月を下回った。

乳製品向けは30万8802トン（同2.2%増）とわずかに上回り、5カ月連続で増加した。これを品目別に見ると、クリーム向けは6万2719トン（同0.4%減）と4カ月連続で下回り、チーズ向けは3万8375トン（同

4.2%増）と2カ月連続で上回った。一方、脱脂粉乳・バター等向けは、16万6196トン（同2.4%増）と前年同月をわずかに上回り、5カ月連続での増加となった（農畜産業振興機構調べ「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

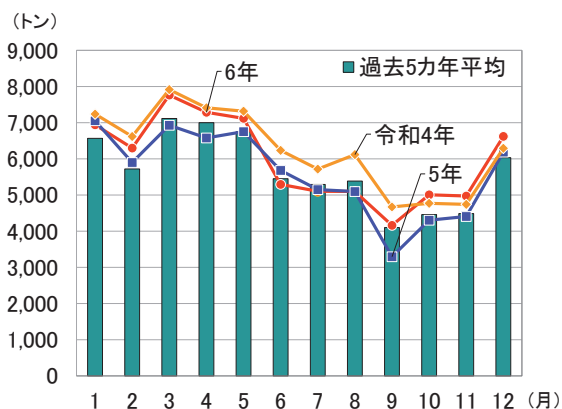
### 全国の牛乳生産量、4カ月連続で前年同月を上回る

12月の牛乳等生産量を見ると、飲用牛乳等のうち牛乳は、24万7453キロリットル（前年同月比0.5%増）と4カ月連続で前年同月を上回った。一方、成分調整牛乳は前年割れが継続しており、1万6510キロリットル（同7.5%減）とかなりの程度下回った。加工乳については、1万4314キロリットル（同0.2%減）と前年並みとなった。

### 12月のバター在庫量、前年同月比10.7%増

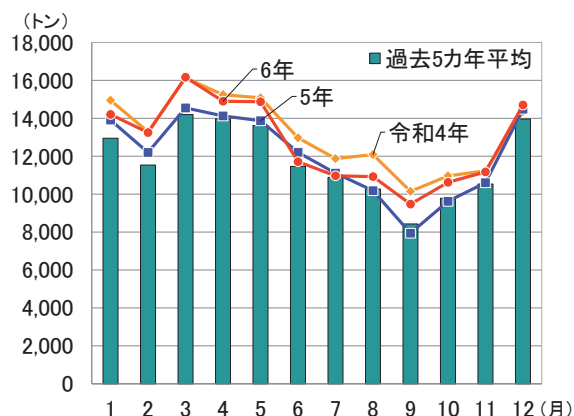
12月のバターの生産量は、6622トン（前年同月比7.0%増）と前年同月からかなりの程度増加し、5カ月連続で前年同月を上回った（図2）。出回りは9246トン（同5.6%増）と前年同月をやや上回った（農畜産業振興機構調べ）。12月末の在庫量についても、2万2488トン（同10.7%増）となり、4カ月連続で前年同月を上回った（図3）。

図2 バターの生産量の推移



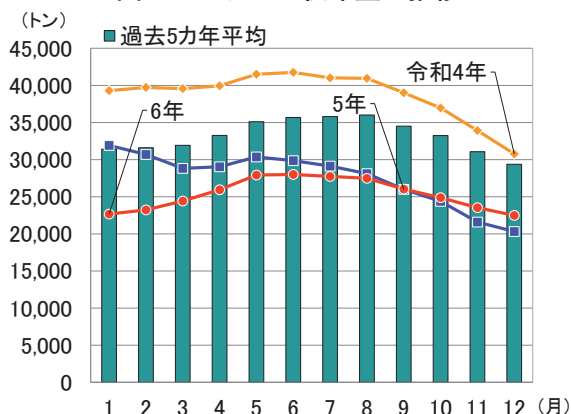
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図4 脱脂粉乳の生産量の推移



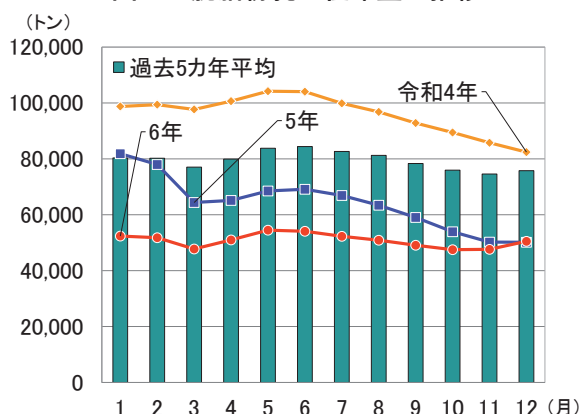
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図3 バターの在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

## 12月の脱脂粉乳在庫量、前年同月比0.7%増

12月の脱脂粉乳の生産量は、1万4705トン（前年同月比1.6%増）と前年同月からわずかに増加し、5カ月連続で上回った（図4）。一方、出回り量は1万1838トン（同18.6%減）と前年同月を大幅に減少し、6カ月連続で下回った（農畜産業振興機構調べ）。在庫量は、令和4年10月以降前年同月減で推移していたが、12月末は5万491トン（同0.7%増）と、2年3カ月ぶりに前年同月の在庫量を上回った（図5）。

## 令和7年度の生乳生産量、728万8000トンと2年ぶりに減産となる見込み

一般社団法人Jミルクは令和7年1月31日、「2024年度および2025年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと課題について」を公表した。これによると、令和6年度の生乳生産量は735万トン（前年度比0.4%増）と3年ぶりに前年度を上回る見通しとなった。地域別に見ると、北海道は424万3000トン（同1.6%増）と前年度を上回る一方、都府県では310万8000トン（同1.3%減）と下回る見通しとなった。

一方、7年度は728万8000トン（同0.8%減）

と2年ぶりに前年度を下回る見込みである。  
地域別に見ると、北海道は423万4000トン  
(同0.2%減)、都府県でも305万4000トン

(同1.7%減)といずれも下回る見込みとなっ  
ている。

表1 生乳生産量の見通し

(単位：千トン、%)

	全国		北海道		都府県	
	生産量	前年度比 (増減率)	生産量	前年度比 (増減率)	生産量	前年度比 (増減率)
令和3年度	7,647	2.9	4,312	3.7	3,335	1.8
4年度	7,533	▲1.5	4,254	▲1.3	3,279	▲1.7
5年度	7,324	▲2.8	4,175	▲1.9	3,149	▲4.0
6年度 (見通し)	7,350	0.4	4,243	1.6	3,108	▲1.3
7年度 (見通し)	7,288	▲0.8	4,234	▲0.2	3,054	▲1.7

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、一般社団法人Jミルク「2024年度および2025年度の生乳及び牛乳乳製品  
品の需給見通しと課題について」(1月31日公表)

注：令和3～5年度は実績値、6～7年度は見通しである。

## 令和7年度の輸入枠数量が決定

農林水産省は令和7年1月31日、令和7  
年度の国家貿易による指定乳製品等の輸入枠  
数量を決定した。これによると、7年度は、  
WTOにおいて約束している最低数量（カレ  
ントアクセス：生乳換算で13万7000トン）  
にとどめることとした。品目別（製品重量）  
では、脱脂粉乳は日米貿易協定に基づく750  
トン以内、ホエイはWTOに基づく4500トン

以内、バターオイルは事業者の要望に基づく  
140トン以内、残りをバターとして8000ト  
ンから約1万トンに割り振ることとした。

当機構は、今回設定された輸入枠数量に基  
づき、基本的にバターは毎月、その他の品目  
は需給状況に応じて輸入入札を実施する予定  
である。

(酪農乳業部 天野 明日香)

# 鶏卵

## 7年1月の鶏卵卸売価格、前年同月比43.3%高

### 卸売価格

令和7年1月の鶏卵卸売価格（東京、M玉  
基準値）は、1キログラム当たり258円（前  
年同月差78円高、前年同月比43.3%高）と、

前月から同32円下落したものの、前年同月  
の同価格を大幅に上回った（図）。同価格の  
日ごとの推移を見ると、月初の同225円か  
ら15日には同240円、17日には同250円、  
21日には同260円、23日には同275円、

24日には同285円、28日には同295円、30日には同305円と計7回の上昇があり、月間の上昇幅は同80円となった。なお、過去5カ年の1月の平均卸売価格との比較でも、39.5%高と大幅に上回る結果となった。

供給面を見ると、生産量は、6年10月以降、全国各地の養鶏場（採卵鶏）で相次いで発生

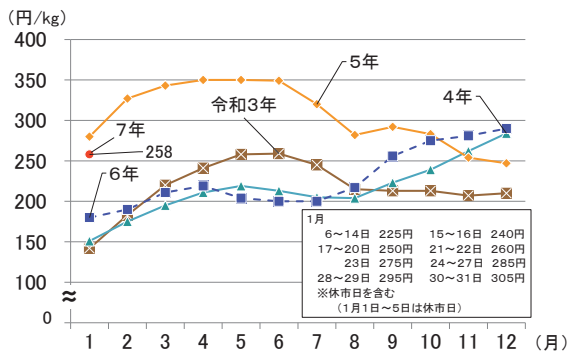
している高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の影響により、不安定な状況が続いている。一方、需要面を見ると、HPAIへの懸念により量販からの引き合いが強まっているほか、インバウンドを含む外食などの業務用向けが引き続き堅調に推移している。

## 家計消費量

12月の鶏卵の家計消費量（全国1人当たり）は、970グラム（前年同月比2.1%増）と前年同月をわずかに上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の12月の平均消費量との比較でも、1.8%増とわずかに上回る結果となった。

図 鶏卵卸売価格（東京、M玉）の推移



資料：JA全農たまご株式会社「相場情報」  
注：消費税を含まない。

(畜産振興部 大西 未来)

# 令和6年の畜産物の輸出動向について

令和6年の農林水産物・食品の輸出については、中国および香港向けが水産物の輸入規制の影響を受けて減少した一方、それ以外の国・地域向けが大きく増加した結果、過去

最高となる1兆5073億円（前年比3.7%増）となった。そのうち畜産物は、1073億4600万円（同6.5%増）となっており、畜種別の輸出動向について紹介する。

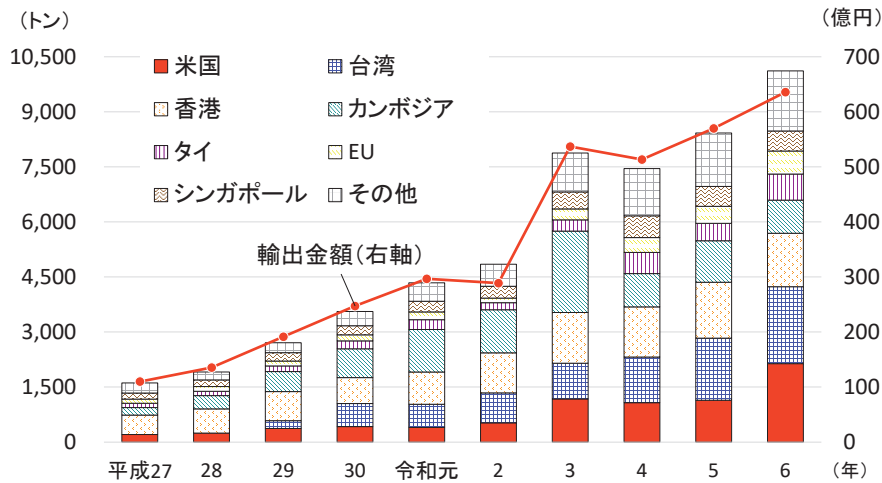
## 【牛肉】牛肉輸出量、前年比20.1%増

令和6年の牛肉輸出量（牛くず肉を除く。以下同じ）は、1万113トン（前年比20.1%増）と大幅に増加し、過去最高となった（図1）。輸出先は51カ国・地域となっており、国・地域別のシェアを見ると、米国向けが2139トン（同87.2%増）で21.1%と、前年にトップだった台湾を上回った。次いで台湾が

2094トン（同23.8%増）で20.7%、香港が1458トン（同4.1%減）で14.4%となった。

輸出金額は、635億8409万円（同11.6%増）と前年からかなり大きく増加し、輸出量同様に過去最高となった。

図1 牛肉輸出量・輸出金額の推移

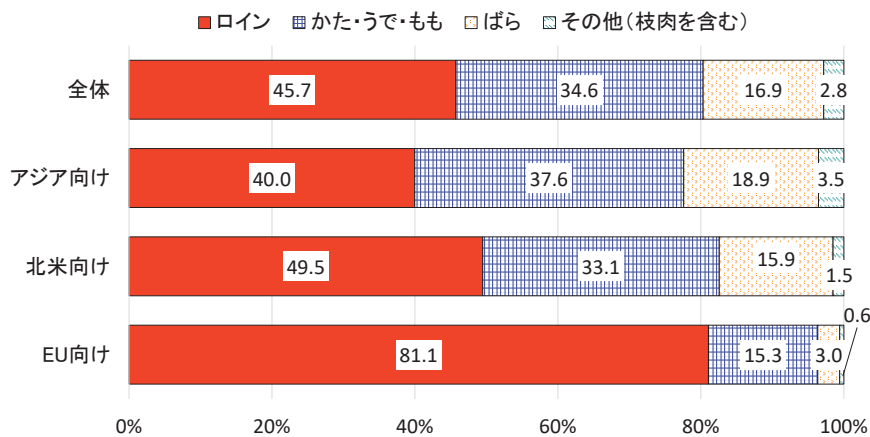


資料：財務省「貿易統計」  
注：統計品目番号（0201、0202）。

また、牛肉輸出量の部位別割合を見ると、全体に占める「ロイン」の割合が45.7%と最も高く、次いで「かた・うで・もも」が34.6%、「ばら」が16.9%となった（図2）。なお、EU向けは引き続きサーロインなどの「ロイン」を中心とした輸出となっている一方、

北米向けはこれまで「ロイン」が中心であったものの、「かた・うで・もも」の同割合が前年から20.4ポイント増加して33.1%となり、「ロイン」の同割合は前年から30.0ポイント減少して49.5%となった。

図2 牛肉輸出量の部位別割合（令和6年）

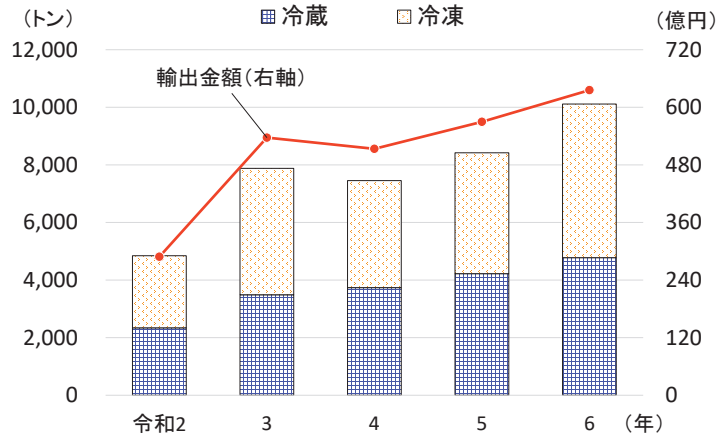


資料：財務省「貿易統計」  
注1：統計品目番号（0201、0202）。  
注2：端数処理の関係から内訳の合計が100%にならない場合がある。

冷蔵・冷凍別の牛肉輸出量を見ると、冷蔵は4777トン（同13.2%増）とかなり大きく、冷凍は5336トン（同27.1%増）と大幅に、いずれも前年を上回った（図3）。全体に占

める「冷蔵」と「冷凍」の割合は同47%：53%となり、前年から冷蔵品は3ポイント減少、冷凍品は3ポイント増加となった。

図3 冷蔵・冷凍別の牛肉輸出量・輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：統計品目番号（0201、0202）。

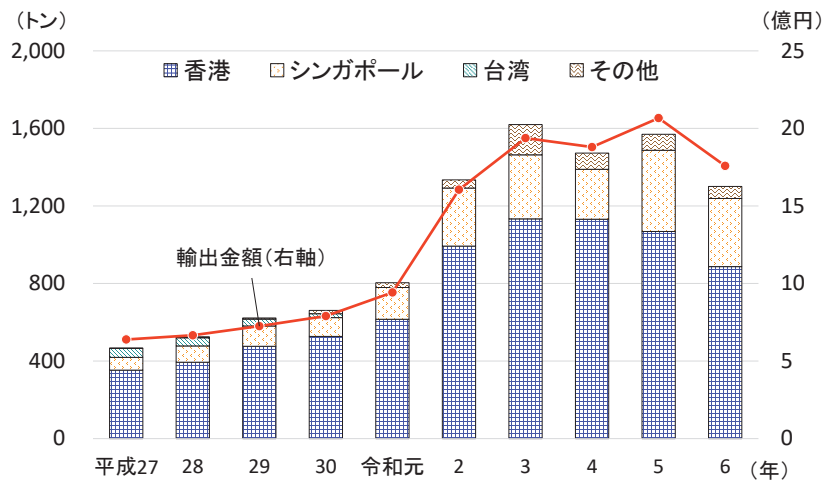
## 【豚肉】 豚肉輸出量、前年比17.1%減

令和6年の豚肉輸出量（豚くず肉を除く。以下同じ）は、1,301トン（前年比17.1%減）と前年から大幅に減少した（図4）。輸出先は、前年から1カ国減少し、8カ国・地域となっており、国・地域別のシェアを見ると、香港向けが887トン（同17.0%減）で68.2%

最も多く、次いでシンガポール向けが351トン（同16.1%減）で27.0%となった。

輸出金額は、17億5,805万円（同14.9%減）と前年からかなり大きく減少した。

図4 豚肉輸出量・輸出金額の推移

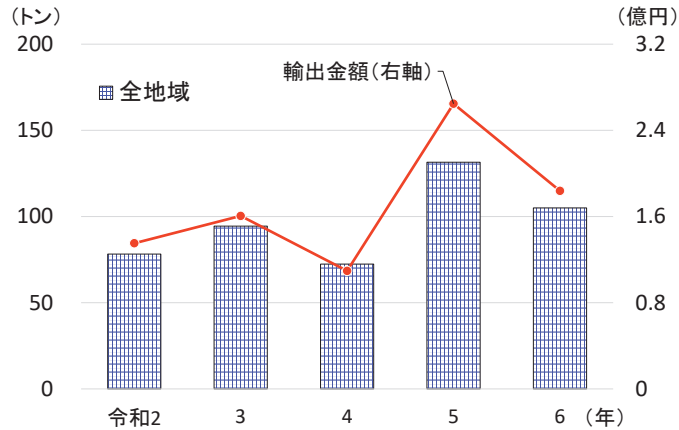


資料：財務省「貿易統計」  
注：統計品目番号（0203）。

また、ソーセージやハムなどを含む豚肉加工品（豚肉調製品（ゆでた豚足など）を除く。

以下同じ）の輸出量は105トン（同20.1%減）と前年から大幅に減少した（図5）。

図5 豚肉加工品輸出货量・輸出金額の推移（豚肉調製品を除く）



資料：財務省「貿易統計」

注：統計品目番号（021011、021012、021019、1601、160241、160242）。

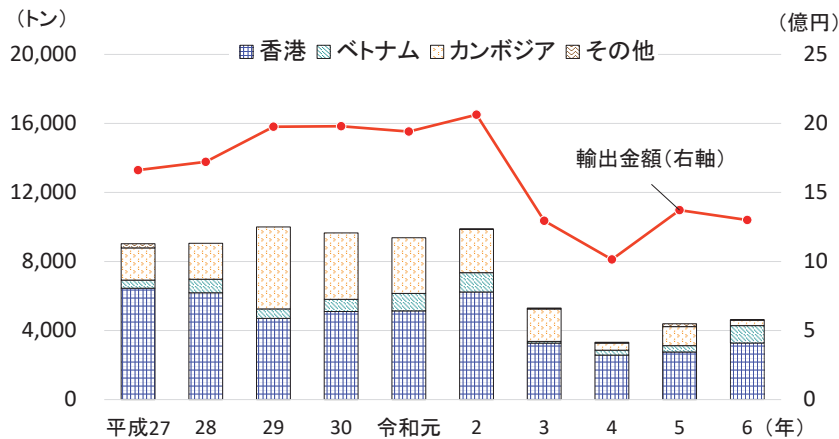
## 【鶏肉】 鶏肉輸出货量、前年比5.3%増

令和6年の鶏肉輸出货量は、4621トン（前年比5.3%増）と前年からやや増加した（図6）。輸出先は、前年と同数の5カ国・地域となっており、国・地域別のシェアを見ると、香港向けが3278トン（同18.9%増）で

70.9%と最も多く、次いでベトナム向けが1006トン（同173.2%増）で21.8%となった。

輸出金額は、13億49万円（同5.2%減）と前年からやや減少した。

図6 鶏肉輸出货量・輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」

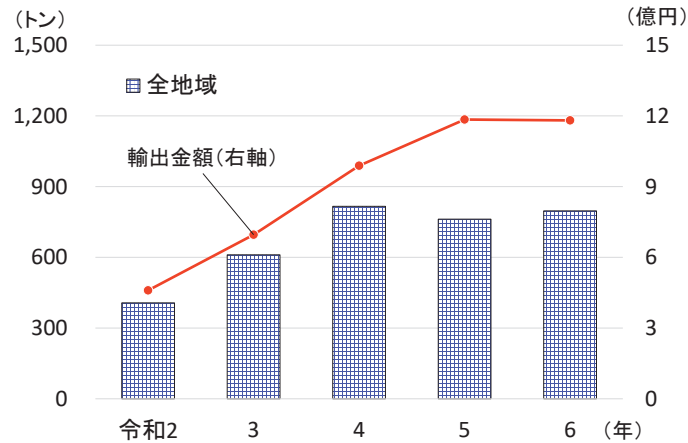
注：統計品目番号（0207）。

一方で、空揚げやサラダチキンといった鶏肉加工品の輸出货量は、797トン（同4.6%増）と前年からやや増加した（図7）。国・地域別のシェアを見ると、香港向けが761トン

（同3.2%増）で95.5%とほとんどを占めた。

輸出金額は、11億8095万円（同0.3%減）と前年並みとなった。

図7 鶏肉加工品輸出量・輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注：統計品目番号（160232）。

## 【牛乳・乳製品】牛乳・乳製品輸出金額、前年比0.8%減

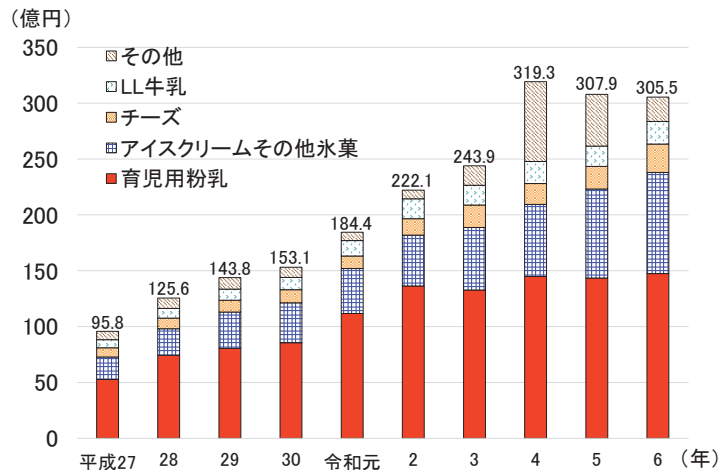
令和6年の牛乳・乳製品の輸出金額は、305億4775万円（前年比0.8%減）と前年をわずかに下回った。

品目別に見ると、最も輸出金額の多い「育児用粉乳」が147億4184万円（同2.8%増）、次いで、「アイスクリームその他氷菓」が90億5621万円（同13.7%増）、「チーズ」が25億4553万円（同25.5%増）、「LL牛乳」が20億1662万円（同10.5%増）と、各品目のいずれも前年を上回った（図8）。一方、「その他」

に含まれる脱脂粉乳が前年比9割減となったことにより、「その他」の金額が21億8755万円（同52.7%減）と前年を大幅に下回り、牛乳・乳製品全体の金額を押し下げた。

輸出先別に見ると、金額の多い順に、「育児用粉乳」がベトナム、カンボジア、台湾、「アイスクリームその他氷菓」は台湾、香港、米国、「チーズ」は台湾、香港、ベトナム、「LL牛乳」は香港、シンガポール、台湾、「その他」はフィリピン、台湾、タイとなっている。

図8 牛乳・乳製品の輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注1：輸出金額は、牛乳・乳製品の合計。  
注2：統計品目番号は、0401～0406、1901.10-000、2105.00-000、35012。



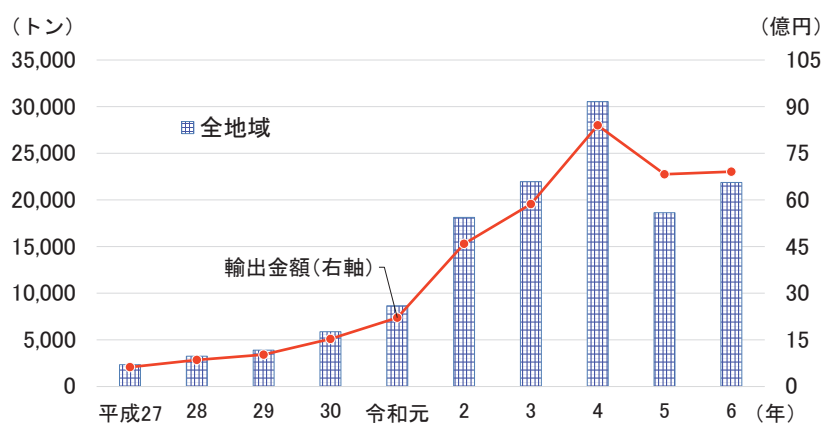
## 【鶏卵】 鶏卵輸出量、前年比17.4%増

令和6年の鶏卵（殻付き卵）の輸出量は2万1869トン（前年比17.4%増）と前年から大幅に増加した（図9）。国・地域別のシェアを見ると、香港向けが2万1456トン（同

17.0%増）で98.1%とほとんどを占めた。

輸出金額は、69億707万円（同1.2%増）と前年からわずかに増加した。

図9 鶏卵（殻付き卵）輸出量・輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」

注1：数値は殻付き卵（食用）。

注2：統計品目番号（040721、040729、040790）。

（食肉・鶏卵：畜産振興部 大西 未来）

（牛乳・乳製品：酪農乳業部 天野 明日香）